つれづれなるままに

15期　舟田 節子

◈回顧のお年頃

「異常気象の夏」を、毎年繰り返していますが、この夏も、そうでした。北陸に関しては、8月2日にようやく梅雨明けしたと思えば、その4日後にはもう大型台風5号の雲が伸びてきていました。

その間隙を縫って、金沢の地の利ならこそ、白馬での夏山を満喫できました。

8/4 白馬大雪渓にて

しかし、大雪渓に深々と刻まれたクレバス。アイストンネルも拡大し続けているとのこと。さらには7月初めの集中豪雨による大量の落石が、雪面に広がってもいました。ちなみに小雪だった昨年は、9月1日から大雪渓は通行不可になっていました。

これまで、こんなことはなかった…。能天気に夏山JOY!と歓喜できた時代が終わったのではないか…の嘆息に、あの頃はこうだった、それなのに今は…の繰り言が連なっていきます。そんな「お年頃」（？）なのですね。

◈「せっかち」に軍配

さて、百名山の仕上げにかかっていた2010年の夏は、毎週のように深夜バスに乗り、東京発ツアーに参加していました。往復で6400円！早朝の新宿に横付してもらえば、ちょうど、集合時刻に間に合いました。初日はどのみち、半日から一日は登山口への移動に費やすことになります。ですから、体力的に「無茶」には相当しませんでした（その頃は）。

それまでは、行きたい山へ行こうとすれば、周囲に数々の障害があるものでした。それらの多くがやっと取り除かれて、改めて検討してみれば、「知らない山」と、「そこまでのアクセス」は、やはり、あまりにも難題でした。

それが、電話で予約さえすれば「行ける」になるのです。すごい可能性を手に入れたと思い、嬉々と出かけたものでした。地方都市金沢で、山にからんだ人間関係やらノルマやらで、カレンダーが悶々と埋まっていくより、カタログを眺めて、電話して、「やったあ！行くぞ！」になれるのは、うきうき、ワクワクする時間でした。

ところが、深夜バス事故がおきてからはボンと値上げ。さらに鍛冶橋ターミナルでの定時発着というシステムに変わり、最終SAでたっぷり時間調整してから東京入りという「融通のなさ」になりました。

どう地団太踏んでも、集合時刻に間に合わない！前日から新幹線で移動したうえ前泊なんて、時間ロスも金銭ロスも甚だしい！

もちろん、それからも、「吾妻連峰を避難小屋泊まりで縦走したい」、「ミヤマキリシマに染まる時期の九重連山を歩きたい」の時には、東京発ツアーを選びました。時間やお金がもったいない！…には、上野での美術館巡りや、旧友とのデイトをからませる知恵を駆使しました。

でも、百名山の後、二百名山、三百名山への発想にならなかったのは、これが主因です。それに、ちょうど体力も急降下していきました。

「山は逃げない」けれど、動くなら、一日でも若いうちに、無理が無理にならないうちに…と、お薦めします。

また、その前に、東日本大震災もおきていました。そのせいで、百名山完登の夢が、数年延びてしまった人を何人も知っています。そんなことを到底口にできない時間が流れていました。

前述の吾妻連峰の時など、一切経山の噴火が活発化したうえ、有料道路を無料にしても、観光客数が復活していませんでした。東京都民であれば、ツアー料金は割引などという、不思議な支援策がとられても登山客数は回復していかず、整備の手が回らない山中では、やむなくの迂回もありまし

た。
山遊びなんて、家庭が平和で無事でを前提として、楽しめるレジャーですが、それ以前に、日本が平和で安泰でないと、成り立ちません。
なので、私にすれば、大震災というと、不謹慎ながら、「それまでに百名山がもう済んでいてよかった！」の連想になっています。

「せっかち」気味に動いていれば、どれだけかは実現できます。一日一日、自分の体は衰えていく。周囲も衰えていく。そして碌でもない話の方ばかりが確実に増えていきます。
過ぎてみれば、時を得て動けていた日々だったのでした。百名山狂騒曲が鳴り響いていた、慌しかった最後の夏を懐かしく思い出します。

◈日本百名山攻略！
百名山詣ででは、最終の山をどこにするか？と、終盤をどんな攻め方にするか？に、個性や事情がからんできます。

私の場合は、そもそもが、地元バスツアー会社が百名山ツアーを始めたのがきっかけでした。しかも、儲かるように、遠隔地を優先にツアーが組まれていました。妥当なら、遠くて足を引っ張ることになる筈の北海道や九州の山々の方が、先に消化できてしまいました。それで、「なら、仕上げてみるか」の気になったのです。
当時はまだ学習塾をやっていて、夏休みは普段より多忙になってしまう境遇でした。夏山 JOY なんて、1 回の北アルプス確保がやっとの有様。自力で海峡を越えて遠征なんて、やりようがない。だから百名山も論外の話だったのです。
その後も、地元発百名山ツアーの常連客になり、着々と数を稼いでいきました。

ところが、あと幾つの段階に入ってきた頃には、地元ツアー会社とは日程が合わなくなってきてしまいました、週末の名山の山小屋は、先行大手ツアー会社が抑えこんでしまっていて、後発会社は、やむなく平日発の日程での募集となるのです。あるいは時期外れといえる週末の設定になっていました。
その頃高校非常勤講師に転職していた私は、夏休みを盛大に使えるようになった替り、平日発分の休みがとれなくなっていました。
それで週末設定の東京発大手ツアーの利用を決意しました。しかしながら、金沢から近い北アルプスの場合、東京迂回はいくらなんでも馬鹿げている！になります。
ならば、どう仕上げるか？
対策を練った時点で、残っていたのが、11 山…十勝岳、朝日岳、飯豊山、会津駒ヶ岳、至仏山、高妻山、鹿島槍が岳、水晶岳、空木岳、悪沢岳、赤石岳。

それらをツアーカタログで調べまくり、旦那アッシーをからめて立案。
7/3～4　会津駒ヶ岳　東京発ツアー
7/10～11　至仏山　夫婦登山
7/16～19　飯豊山　東京発ツアー
7/23～25　上富良野岳～十勝岳　東京発
7/30～8/1　以東岳～大朝日岳　東京発
8/6～9　千枚岳～悪沢岳～赤石岳　東京発
8/13～16　烏帽子岳～水晶、鹿島槍　夫婦
8/21～22　高妻山　夫婦登山
8/28～30　木曽駒～宝剣岳～空木岳　東京発

これらは、東京発で狙うのが妥当な山を優先していった結果、さらには、100 山目は、完登を祝ってくれるという木曽殿山荘を擁した空木岳…と決めた結果のスケジュールでした。
このうち、水晶岳は、大晴天の日に、雲ノ平から岩苔乗越へ上がり、「水晶も往復してこよう」と言ったのに、旦那が嫌がりパスしたため、ど真ん中に残してしまった山。
そして、鹿島槍はこれまた、種池から爺を越え、往復して冷池泊まりのつもりが、「台風の影響が出ないうちに」（慎重派の旦那の意見）と、赤岩尾根下りに急変更となり（妻の判断では、十分に行けた！）、一日早く下ってしまったため外した山でした。
あちこちから度々眺めていながら、実はピークを踏んでいなかったのです。

◈　97，98 山目
「あんたの優柔不断のせいで、こんなど真ん中が残ってしまったわ！」と文句を言い立てて、連

覇（？）のアッシーに仕立てたのが、8 月 13 日の盆休みのことでした。
　こんなこと、来年まで持ち越したくない。来年も行ける補償なんてない。連ちゃんの今の方が、かえって体調がいい。（ザックも山服も、座敷の一隅に常時待機していました。）

　山は基本的に、夏がベストシーズンです。小屋が営業している、多数の登山客が往来している、アクセスも夏山ダイヤになり便利。天気を含めて、軟弱者が臨機応変をやれ、少々無茶をやれるのも、夏に限った話です。

　2010 年のお盆休み中の天気予報は、そうもひどくはならない…程度でした。
　初日は七倉からブナ立尾根を上がり、烏帽子小屋へ。
　ここで、東京発ツアーで馴染みになった TL と出会いました。彼ら一行は槍まで大縦走の予定です。天候は思ったより下り坂、ここからさらに入り込むかどうか、思案のしどころだったようです。
　私達の方は、真砂岳からピストンで水晶、そして湯俣へ下りだから、尾根筋の半日が持ってくれれば…が判断基準でした。
　さて明けた翌日、昨日見えていた黒々しい水晶岳も含め、全てがガスの中でした。そして猛烈な風。野口五郎小屋でしばし待機してから出発すると、前方を行くアベックのザックカバーが散々はためいた後、吹っ飛んでいきました。
　真砂岳で、（奥様は）予定通りの水晶ピストンを決めました。水晶小屋は、ずぶ濡れ登山者で一杯。「ここで待っている」という旦那を置いて、水晶頂上をピストン。「温かい雨」をぬぐいながら…でした。冷たかったら、こんなこと、やってられません。ふいに現れた頂上標柱の前で、必死で証拠の自撮りをやって、引き返し。小屋前でそそくさと昼食をとって下山。

　真砂岳から稜線を離れると、風は収まりました。しかし竹村新道は、静かなエスケープルートです。ろくな標識がなく、周囲は見えずのまま、初めて登り客と交差しました。なんかのセミナーの老教授と、学生達という雰囲気でした。
　ようやく出てきたピークの標識で、予想より 2 時間遅れの地点にいると判明。猛然とスピードアップするも、山連チャンの私と違い、一か月ぶりの旦那の方は「付いていけん。先に宿へ行ってくれ」。私は私で、「烏帽子発の中年夫婦がどの小屋にも着いていない」なんて連絡が回ったら…と、気が気でなく、さらに飛ばし下ります。

　湯俣温泉晴嵐荘に着いた途端、夜の帳が下り、豪雨になりました。おろおろと窓から眺めるも旦那は着かない…。救いは、老教授とセミナー学生一行がまだ下りてきていないことでした。妥当なら、彼らの方が旦那より後ろにいることになるのですから。
　宿で待機していた学生達が「遅すぎる」と右往左往し始め、宿のスタッフ達と救援に出掛ける様子。雨の中をライトが行き交います。

　意を決して「すみません、うちの旦那も探して下さい」と、言いに行こうと、下へ下りたら、なんと、玄関にへばって座りこんでいる旦那の背中が見えました。
　こちらもヘナヘナとなる心地で、
「もおお。『救助に行って下さい』と頼もうと思って降りてきたところよ」と言うと、
「いやもう真っ暗になってしまって。小屋の灯りの方は、かえってはっきり見えたから、それは安心だった。そやけどヘッドランプの届く範囲が狭くて、ゆっくりでしか歩けなかった。後ろにまだ人がいたし、迎えの人達が上がっても来たから、遭難するとは思わなかったけど…」の弁。
　スタッフに遅着を叱られ、平身低頭ながらも、安堵で浸かった、結構な温泉でした。

　思いおこせば、この湯俣温泉（湯俣山荘）へは、高校 2 年生の時に、家族登山でエスケープルートとして、当時の伊藤新道で下りてきています。
　あの時は、父親が地域の診療所を引き継ぎ、3 年にわたる盆正月もない日々を過ごしてからの、満を持しての折立からの大縦走でした。開業が軌道に乗ったといえる頃といっても、周囲の開業医に気になる患者を委託手配してでも、縦走に出ようとした父の山恋心に、今の方が、もっと感心してしまいます。当時の私は、「家族揃って」が最優先とされて、テニスの試合をパスする羽目にな

り、相棒にすまなくてむくれていました。「親の勝手」の思いが強くて、父の立場や情熱の方へは思い至りませんでした。

私も海外トレッキングに際しては、「思い切ったことを」のような言われ方をすることがありますが、この頃の父の比ではありません。結局のところ、影響されているのです。DNA の他に、判断基準とか価値観のあたりを受け継いでしまうものなのです。行動力を与えてくれたことには感謝です。

7/16 カムチャッカ半島フラワーハイキング

さて、翌日は高瀬川沿いに猛然と下り。なんでこんな辺鄙な所にまだ温泉が？道が？の謎は、北鎌尾根への道標があって、解けました。北鎌尾根がどこからとりつく？なんて考えたこともなかったので、納得しました。

さらに酔狂後半戦の始まりです。たどりついたマイカーの中で着替え、ザックの中身も更新して、扇沢手前で下ろしてもらいました。柏原新道を上がり、冷池山荘へ。翌日、3 時半に出発し、やはりガスの中の鹿島槍ヶ岳に登頂し、証拠写真を撮ってもらい 98 山目としました。柏原新道を経由して走り、11 時に下山。5 分も待たずに旦那と合流できました。昨日はアルペンルートで時間潰しをしたという旦那は、汗臭ささで顰蹙をかっていたらしいです。

◈エピローグ

99 山目の高妻山は、親指の爪を真っ黒にした旦那は登らずにアッシーのみ。ここもまた私の単独行での登頂となりました。

そして、奥名さんや、ナカオの仲間に作ってもらった完登幕と、同行仲間に配る長生殿の小墨 11 箱を詰めて、中ア縦走に向かい百名山の仕上げとしました。

あれからも、NHK のお蔭で、長々と余韻を楽しませてもらっています。「やった！」といえる思い出をもてるのはありがたいことです。そしてきつかったことの方がとっておきの思い出になるのも、人の常ですね。

今年の高山は、9 月 30 日～10 月 1 日の妙高山で終了した…となりそうです。山遊びに旦那を巻き込んだお蔭で、好天を狙い定めてさっと動く…が、やれています。

また、最近は、元卒論指導教官が理事長をしているご縁で、「チョウゲンボウ」という、e 教育サロンの月刊機関誌の裏表紙（たまに表紙も）に山と花の写真を利用して頂けるようになりました。

昔は 3K といわれて、変人の趣味だったような山遊びが、縦にも横にも、時間軸でも、ご縁をつなぐようになりました。これもありがたいことです。

10/1 妙高山にて

やたら遡って思い出したり、ありがたがってみたり…。どうも、立派な高齢者になってきたようです。